

授業科目名	ものづくりデザイン演習1 (彫金) Creative Manufacturing Design Seminar I (Metalworking)	担当教員名	安藤 康裕
時間割	水、木曜日 4、5 時限	オフィスアワー	
授業科目区分	専攻科目ー専攻専門科目ーものづくりデザイン専攻科目		
履修区分	専攻選択必修科目	授業形態	演習
配当年次・学期	3年次前期	単位数	3単位
前提とする授業科目、密接に関係する授業科目 「ものづくりデザイン演習2 (彫金)」、「ものづくりデザイン演習3」へと段階的に履修する			
授業に関連するキーワード 「素材感覚」「金属加工」「打ち出し技法」「精密鑄造技法」「ジュエリー」			
授業の到達目標及びテーマ 金属素材の加工を通して、素材の持つ魅力やその特性と加工技術を学び、制作に必要な「力加減」などの微かな感覚を養う。			
授業の概要 授業の始めに、機会・工具などについての安全教育を行う。 授業前半では金属の板材による高肉打ち出しの技法による練習課題（参考作品の模刻）を行う。さらにその体験から金属の魅力を踏まえた高肉打ち出しの技法による『ジュエリーまたは日用品』の制作を行う。 授業後半では精密鑄造技法で『ジュエリーまたは日用品』を制作し金属素材の鑄造への理解を深める。			
授業計画 第1回 機械・工具についての安全教育 第2回 ガイダンス、練習課題制作 第3回～8回 練習課題制作 第9回 『ジュエリーまたは日用品』アイデア展開 第10回～13回 アイデア展開 第13回～17回 作品制作 第17回～22回 精密鑄造作品制作 第23回 前半・後半課題の講評			
授業時間外の学習内容等 演習授業であり感覚の要請が必要なため授業時間外でも積極的に制作を行うこと。			
評価方法 提出作品80%、レポート20%			
履修上の注意 安全作業が可能な服装を着用すること。※課題ごとに材料費を徴収します。 *施設・設備の関係上、履修者の人数調整を行う場合があります。			
テキスト 必要に応じて適宜プリントを配布			
参考書・参考資料等 「ジュエリー」用具と使い方 日本宝飾クラフト学院編 株式会社美術出版 ジュエリーキャストの基本と実践 諏訪小丸著 柏書房松原			

授業科目名	ものづくりデザイン演習1 (ガラス) Creative Manufacturing Design Seminar 1 Glass	担当教員名	小牟禮 尊人 瀬沼 健太郎																																										
時間割	水、木曜日 4、5 時限	オフィスアワー	各教員による																																										
授業科目区分	専門科目—専門専攻科目—ものづくりデザイン専攻科目																																												
履修区分	専攻選択必修科目	授業形態	演習																																										
配当年次・学期	3 年次前期	単位数	3 単位																																										
前提とする授業科目、密接に関係する授業科目 ものづくりデザイン 2,3 へと段階的に履修する																																													
授業に関連するキーワード ガラス 基礎造形 デザイン 工芸																																													
授業の到達目標及びテーマ ガラス成形の3つの技法であるホットワーク、キルンワーク、コールドワークのそれぞれの特徴を実習することで理解し、作品の可能性を養うことを目標とする。																																													
授業の概要 3つの技法（ホットワーク、キルンワーク、コールドワーク）を通して、同じガラス素材であっても技法の違いで様々な質感・触感を作ることができることを理解する。																																													
授業計画 第1回 安全ガイダンス 第2回 課題内容・行程の説明とホットワークのデモンストレーション ※第3回以降は2つの技法を同時に進行する <table border="0" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 33%;"></td> <td style="width: 33%;">○ホットワーク I (ソリッド)</td> <td style="width: 33%;">○キルンワーク I (パート・ド・ヴェール)</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>設備・工具の使用法説明</td> <td>サンプルを使用した制作行程の説明</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>ガラスの巻き方</td> <td>ペーパーウエイト作品の考察とスケッチ</td> </tr> <tr> <td>第5回～7回</td> <td>規定作品製作</td> <td>粘土原型と耐火石膏による型作り、焼成</td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td>コールドワークデモ</td> <td>コールドワークデモ</td> </tr> <tr> <td>第9回</td> <td>作品仕上げ作業</td> <td>作品仕上げ作業</td> </tr> <tr> <td>第10回</td> <td>作品提出</td> <td>作品提出</td> </tr> <tr> <td></td> <td>○ホットワーク II (ブロー)</td> <td>○キルンワーク II (プレス型)</td> </tr> <tr> <td>第11回</td> <td>ポンテ・タンブラーデモ</td> <td>サンプルを使用した行程の説明</td> </tr> <tr> <td>第12回～13回</td> <td>形のコントロール方法</td> <td>器作品の考察とスケッチ</td> </tr> <tr> <td>第14回～16回</td> <td>色の加飾とビットワーク</td> <td>型作りと材料ガラスの準備</td> </tr> <tr> <td>第17回～20回</td> <td>自由製作</td> <td>焼成・窯出し</td> </tr> <tr> <td>第21回～22回</td> <td>作品仕上げ作業</td> <td>作品仕上げ作業</td> </tr> <tr> <td>第23回</td> <td>作品提出 (講評)</td> <td>作品提出 (講評)</td> </tr> </table>					○ホットワーク I (ソリッド)	○キルンワーク I (パート・ド・ヴェール)	第3回	設備・工具の使用法説明	サンプルを使用した制作行程の説明	第4回	ガラスの巻き方	ペーパーウエイト作品の考察とスケッチ	第5回～7回	規定作品製作	粘土原型と耐火石膏による型作り、焼成	第8回	コールドワークデモ	コールドワークデモ	第9回	作品仕上げ作業	作品仕上げ作業	第10回	作品提出	作品提出		○ホットワーク II (ブロー)	○キルンワーク II (プレス型)	第11回	ポンテ・タンブラーデモ	サンプルを使用した行程の説明	第12回～13回	形のコントロール方法	器作品の考察とスケッチ	第14回～16回	色の加飾とビットワーク	型作りと材料ガラスの準備	第17回～20回	自由製作	焼成・窯出し	第21回～22回	作品仕上げ作業	作品仕上げ作業	第23回	作品提出 (講評)	作品提出 (講評)
	○ホットワーク I (ソリッド)	○キルンワーク I (パート・ド・ヴェール)																																											
第3回	設備・工具の使用法説明	サンプルを使用した制作行程の説明																																											
第4回	ガラスの巻き方	ペーパーウエイト作品の考察とスケッチ																																											
第5回～7回	規定作品製作	粘土原型と耐火石膏による型作り、焼成																																											
第8回	コールドワークデモ	コールドワークデモ																																											
第9回	作品仕上げ作業	作品仕上げ作業																																											
第10回	作品提出	作品提出																																											
	○ホットワーク II (ブロー)	○キルンワーク II (プレス型)																																											
第11回	ポンテ・タンブラーデモ	サンプルを使用した行程の説明																																											
第12回～13回	形のコントロール方法	器作品の考察とスケッチ																																											
第14回～16回	色の加飾とビットワーク	型作りと材料ガラスの準備																																											
第17回～20回	自由製作	焼成・窯出し																																											
第21回～22回	作品仕上げ作業	作品仕上げ作業																																											
第23回	作品提出 (講評)	作品提出 (講評)																																											
授業時間外の学習内容等 各自ガラス工房にて技術習得のため自主的に制作する事。																																													
評価方法 作品70% 授業態度等30% 100点満点で60点以上を単位認定要件とする。																																													
履修上の注意 施設設備の関係で履修者数を制限することがある ホットワークは安全のために必ずアシスタントを決めて常に2人以上で制作すること。 動きやすい服装、靴で受講してください。																																													
テキスト																																													
参考書・参考資料等																																													

授業科目名	ものづくりデザイン演習1(陶芸)	担当教員名	安藤 郁子
時間割	水、木曜日4、5時限	オフィス	
授業科目区分	専門科目—専門専攻科目—ものづくりデザイン専攻科目		
履修区分	専攻選択必修科目	授業形態	講義
配当年次・学期	3年次前期	単位数	3単位
前提とする授業科目、密接に係る授業科目			
授業に関連するキーワード			
授業の到達目標及びテーマ ①手びねり成形、ロクロ成形、石膏型成形等の基本技法を修得する。②陶磁器の特質（かたち、質感、色合い、手触り等）を知り、各技法によってできるかたちの特質、焼成することによる変化等の陶芸の固有性を理解する。③使い手側の心理や使用感を意識し、土でつくられる「もの」の何が「使用感の充足」足らしめるのかを知る足がかりとする。④工具・陶芸窯等について、安全な使用法を理解する。			
授業の概要 手びねり成形、ロクロ成形、石膏型成形等によるテーブルウェア(茶碗、カップ、小皿等)、立体作品(置物、花器等)を制作する。それぞれの課題ごとに、成形技法・土の種類・釉薬の種類等が指定される。陶芸技法の修得と併せ、「やきもの」と社会とのつながりについて考察を深める。			
授業計画 第1回 工具・陶芸窯等についての安全指導 第2回 授業計画および課題制作についてのガイダンス 第3回 - 6回 土練りと手びねり成形によるテーブルウェア(カップ)制作 第7回 - 11回 手びねり成形による立体作品(置物、花器等)制作 第12回 - 15回 ロクロ成形によるテーブルウェア(茶碗)制作 第16回 - 19回 石膏型成形によるテーブルウェア(小皿)制作 第20回 - 21回 上絵付け技法によるテーブルウェア(小皿)制作 第22回 - 23回 作品の合評会(作品発表、ディスカッション、本授業の総括と補足) ・下絵技法、施釉、窯の焼成等の陶芸制作に関する基本技法については、随時、解説する。			
授業時間外の学習内容等 ・授業時間外に各自制作を進めること。			
評価方法 課題作品 80% 授業態度等 20%で評価し、60点以上を単位認定要件とする			
履修上の注意 必要に応じて陶芸用小道具を各自準備する必要がある。 材料費(粘土代)を徴収する。			
テキスト 授業中に資料を適宜配布する。			
参考書・参考資料等 なし			

授業科目名	ものづくりデザイン演習1(漆) Creative Manufacturing Design Seminar 1 Urushi	担当教員名	熊谷 晃
時間割	水、木曜日 4、5 時限	ワイクアール	
授業科目区分	専門科目－専門専攻科目－ものづくりデザイン専攻科目		
履修区分	専攻選択必修科目	授業形態	演習
配当年次・学期	3 年次前期	単位数	3 単位
前提とする授業科目、密接に関係する授業科目 「ものづくりデザイン演習2(漆)」、「ものづくりデザイン演習3」へと段階的に履修する			
授業に関連するキーワード 「蒔絵・螺鈿」「加飾」「箱」「使用感」			
授業の到達目標及びテーマ 本演習では沈金の加飾技法を施した弁当箱の制作を行う。テーマは現代の暮らしの中で漆の箱として重箱や弁当箱が身近であるが、サイズ感やボリューム等を考え、自分が使用する弁当箱を木地から制作する。また、蒔絵・螺鈿技法の修得のため、植物をモチーフにしたパネル作品を制作する。到達目標は、漆液の素材の特徴を把握し、形や構造デザイン等の比較検討を行い用途とデザイン性の両面から考察する。また木地の制作から下地、塗り、加飾、仕上げまで一貫して制作し漆工芸の基礎技法を修得する。			
授業の概要 「ものづくりデザイン演習Ⅰ」は、素材と手技を活かした「使用感の充足」という物づくりを表現する基礎として、素材の特質の理解とその制作技術の修得を目的とする。本演習では漆液の特徴や加飾技法の表現と効果について資料作品を参考にしながら考察する。授業の冒頭で毎回工程説明を行い技術的な指導と表現のポイントを解説し、各自の進捗状況に合わせて、機械や道具や材料等の扱いについての安全指導を行う。			
授業計画 第1回～2回 機械・工具についての安全指導。課題説明と素材や道具の使用についての解説。 第3回～5回 図面制作、木地加工 蒔絵パネル：蒔絵下図制作とスケッチ 第6回～7回 木地加工 ・螺鈿の加工 第8回～9回 蒔地下地工程 ・下図の転写 第10回～11回 下塗り工程 ・螺鈿の膠貼り 第12回～13回 下塗り工程 ・銀研ぎ出し蒔絵、蒔き詰め 第14回～15回 中塗り工程 ・蒔絵（蒔き詰め） 第16回～17回 中塗り工程 ・蒔絵（蒔き量かし） 第18回～19回 上塗り工程 ・蒔絵（粉固め） 第20回～21回 沈金彫図案制作、彫り練習 ・上塗り 第22回～23回 外部講師による沈金講習会 ・呂色磨き工程			
授業時間外の学習内容等 毎回技法の工程を説明し、素材の特徴やポイントを指導するのでノートを取り復習をすること。また次週までに授業時間外を利用し、道具の仕立や研ぎの工程、アイデアスケッチ等を進める。			
評価方法 提出作品80%、レポート20%			
履修上の注意 漆液は強い自然塗料であるため、肌が弱い人や敏感肌の人にはかぶれる場合があります。心配な学生は事前に相談して下さい。漆刷毛や木地等、各自で購入する道具や材料があります。*施設・設備の関係上、履修者の人数調整を行う場合があります。			
テキスト 必要に応じて配布			
参考書・参考資料等 「漆芸の伝統技法」佐々木 英 著 東京：理工学社			

授業科目名	ものづくりデザイン演習1(木工) Creative Manufacturing Design Seminar Woodworking	担当教員名	山岡 惇
時間割	水、木曜日4、5時限	オフィスアワー	
授業科目区分	専門科目—専門専攻科目—ものづくりデザイン専攻科目		
履修区分	選択科目	授業形態	演習
配当年次・学期	3年次前期	単位数	3単位
前提とする授業科目、密接に関係する授業科目			
授業に関連するキーワード			
授業の到達目標及びテーマ 本授業では、素材と手技をいかした「使用感の充足」という物づくりを実現する基礎として、木の特質の理解と制作技術の修得を目標とする。課題作品の制作を通して、木の「もの」の良さをみつけていくこと、作品としての完成度を高めていくことを大切にしていく。			
授業の概要 2つの課題に取り組む。課題1では箱、課題2では動物の置物を各自がデザインし制作を行う。その過程で手工具・木工機械の使い方や治具等のつくり方、指物技法、削り出し加工の制作手順を学ぶ。			
授業計画 第1回 機械・工具等についての安全指導。 第2回 課題のねらい、制作上の条件、進め方について説明する。 第3.4回 [課題1]アイデアスケッチを行う。紙で模型を制作し量感を把握する。 第5.6回 制作図を作成する。 第7回 手工具、木工機械の使い方について説明する。加工の練習。 第8～16回 部材取り、部材加工、組み立てを行う。 第17回 研磨、塗装を行う。 第18回 [課題2]アイデアスケッチを行う。 第19～21回 材をつくる。かたちの削り出しを行う。研磨を行う。 第22回 仕上げの研磨、塗装を行う。 第23回 課題作品の発表を行う。			
授業時間外の学習内容等			
評価方法 課題作品 80%、レポート 20%で評価し、60点以上を単位認定要件とする。			
履修上の注意 <ul style="list-style-type: none"> ・作業に適した服装で履修すること。 ・授業外に制作を進めておく必要があります。 ・材料費がかかります。また工具など指定されたものを準備する必要があります。 			
テキスト なし			
参考書・参考資料等 木工の伝統技法(理工学社)、原色木材大事典 170種 (誠文堂新光社)			

授業科目名	ものづくりデザイン演習1(染) Creative Manufacturing Design Seminar1 Dyeing	担当教員名	森 香織
時間割	水、木曜日 4、5 時限	オフィスアワー	
授業科目区分	専門科目—専門専攻科目—ものづくりデザイン専攻科目		
履修区分	専攻選択必修科目	授業形態	演習
配当年次・学期	3年次前期	単位数	3単位
前提とする授業科目、密接に関係する授業科目 ものづくりデザイン演習2(染色)、ものづくりデザイン演習3と段階的に履修する。			
授業に関連するキーワード 染色、本友禅染、型染、ものづくり、工芸			
授業の到達目標及びテーマ この演習では繊維素材に対する理解と基本的な染色技法の習得を目標とする。「空間をわける」をテーマとし、求められる機能とデザイン性を分析し、自ら計画し制作する力の習得を目指す。			
授業の概要 現代ではどのような場面で「空間をわける」ことが求められるのか。その際に望まれる機能・用途・デザインとは何か。各自が設定した空間に沿って調査を行い、デザインや素材を検討し作品制作を行う。また、合わせて安全作業に必要な知識の学習を行う。			
授業計画 第 1 回 安全ガイダンス 第 2 回 課題説明 第 3～8 回 本友禅染の技法修得(加賀友禅模作) 【下図作成→下絵付け(生地にとレース)→糊置き→地入れ→色差し→中蒸し(色定着)→伏せ糊→地染め→本蒸し(色定着)→水元→乾燥】 第 9～12 回 型染の技法修得(てぬぐい制作) 【原寸大下図制作→型彫り→紗張り→型付け(糊置き)→地入れ→地染め→本蒸し→水元→乾燥】 第 13～22 回 「空間をわける」をテーマとした作品制作 制作工程は各自で異なるため、それぞれ制作日程表をつくり実制作に入る。 第 21～22 回 仕上げ【縫製やパネル張り等】 第 23 回 制作発表			
授業時間外の学習内容等 事前の予習と十分な復習を要する。また作業の性質上、授業時間内に制作が進まなかった場合は時間外の制作が必要となる。			
評価方法 ※旧「学生に対する評価」 提出作品(80%) レポート(20%)を総合して判断する。			
履修上の注意 彩色用具一式、筆記用具、スケッチブックを持参すること。 染色道具・材料等の費用が別途必要である。 ※ 施設・設備の関係上、履修者の人数調整を行う場合がある。			
テキスト 授業時にプリントを適宜配布する。			
参考書・参考資料等 特になし			

授業科目名	ものづくりデザイン演習1 (プロダクトA) Creative Manufacturing Design Seminar 1 (product A)	担当教員名	柚木 恵介
時間割	水、木曜日 4、5 時限	オフィスワ-	
授業科目区分	専門科目ー専門専攻科目ーものづくりデザイン専攻科目		
履修区分	専攻選択必修科目	授業形態	演習
配当年次・学期	3年次前期	単位数	3単位
前提とする授業科目、密接に関係する授業科目 「ものづくりデザイン演習2 (プロダクトA)」、「ものづくりデザイン演習3」へと段階的に履修する			
授業に関連するキーワード 「デザイン」「コミュニケーションデザイン」「生活」「工芸」「プロダクトデザイン」			
授業の到達目標及びテーマ 現代社会から課題を抽出し、自身の「想い」や「発想」を現実社会の仕組み(量産)に合致した立体的なモノとして具現化する為の基本的な「立体造形把握感覚」と「立体化技術」、そして社会から課題を抽出する為の「思考」と「技術」を体得する事を目指します。			
授業の概要 既存製品を題材に、プロダクトデザインに必要な基礎的な素養「立体把握能力」「観察力」「制作精度」「課題発見能力」「提案力」を養います。最終課題では半期で学んだ事を活かして自らデザイン提案を行ないます。			
授業計画 第1回 : ガイダンス (プロダクトデザインとは)・立体模倣A課題説明 第2回 : 立体模倣A (制作) 第3・4回 : 立体模倣A (制作) 第5回 : 立体模倣A 講評・立体模倣B課題説明 第6回 : 立体模倣B (制作) 第7・8回 : 立体模倣B (制作) 第9回 : 立体模倣B 講評・改善課題説明 第10回 : 改善課題 (制作) 第11・12回 : 改善課題 (制作) 第13・14回 : 改善課題 (制作) 第15回 : 改善課題 講評 第16回 : 提案デザイン課題 導入 第17・18回 : デザインテーマ決定 第19・20回 : デザイン決定> 第21・22回 : 図面化 第23・24回 : 模型作成 第25・26回 : 模型作成 (塗装) 第27・28回 : 発表資料作成			
授業時間外の学習内容等 毎週ステップアップする課題設定であり、時間外に考察や制作を行うことが前提となります。			
評価方法 毎回の提出作品および発表の水準。技術習得への工夫などを総合的に評価します。			
履修上の注意 デザインや計測作図に必要な用具・切削接合に必要な用具の費用・材料費が別途かかります。授業時間以外も準備や制作が必要です。状況により各回の順序や内容が変わる可能性があります。			
テキスト 必要に応じて資料を適宜配布します。			
参考書・参考資料等 必要に応じて資料を適宜配布します。			

授業科目名	ものづくりデザイン演習1 実 (プロダクトデザイン-B) Creative Manufacturing Design Seminar 1 PD-B	担当教員名	今中 隆介
時間割	水、木曜日 4、5 時限	オフィス	
授業科目区分	専門科目－専門専攻科目－ものづくりデザイン専攻科目		
履修区分	専攻選択必修科目	授業形態	演習
配当年次・学期	3年次前期	単位数	3単位
前提とする授業科目、密接に関係する授業科目 「ものづくりデザイン演習2 (PD-B)」、「ものづくりデザイン演習3」へと段階的に履修する			
授業に関連するキーワード 「プロダクトデザイン」「美しさ」「フォルム」「立体感覚」「人間工学」「生活」			
授業の到達目標及びテーマ イメージや提案を具体的な形状に展開するための基礎的な造形技術と、自らが美しいと感じるフォルムの調査発見および客観的理解の入り口となる課題に取り組む。思いや考えといった無形の世界を可視化し、触れて実感できる造形物を出現させる一連のプロセスを体験し、基礎的な制作姿勢と技術的基盤を作る。			
授業の概要 前半課題は、計測と再現による立体観察および立体表現の基礎力を養う。後半課題では生活プロダクトをテーマに、フォルムに対する自己感覚の客観的理解と造形技術の基盤を形成する。自身のインテリア設計の経験と実践から、椅子が置かれる背景である空間やシーンによってどのような機能や用途、形状が求められるのかを指導に取り入れつつ授業を進める。			
授業計画 ■前半課題（製品の計測と再現） ・第1回 → ガイダンス（プロダクトデザインとは・課題説明） ・第2～4回 → 実物を計測し簡易図面作成 ・第5～6回 → 図面を基に紙で立体化 ・第7回 → 提出講評 ■後半課題（生活プロダクトの提案） ・第8～9回 → 人間工学、調査と分析 ・第10～11回 → フォルムの検討と決定、簡易的な図面化 ・第12～14回 → ケミカルウッドによる原型作り ・第15～18回 → パテ作業、コンセプトメイキング ・第19～22回 → 塗装仕上げ、撮影、コンセプトシートの完成（A4サイズ） ・第23回 → 講評会			
授業時間外の学習内容等 毎回の課題は規定の授業時間の2倍のボリュームを設定する。毎回次週までの授業時間外を利用し、設定された課題をこなしつつ授業計画に則って授業を進める。			
評価方法 前半課題 25%、後半課題 75%とする。			
履修上の注意 スケッチや作図等に必要な用具を持参すること。材料費と簡単な工具類が必要。授業時間外に授業準備や製作を行うこと。授業進行の状況により各回の順番は変わることがあります。制作作業では汚れても良い服装で履修すること。			
テキスト 必要に応じて資料を適宜配布します。			
参考書・参考資料等 1000chairs、家具ブランドのカタログ（Cassina、B&B Italia、MOROSO、sixinch ほか）			

授業科目名	地域産業研究 Study of Regional Industry	担当教員名	今中 隆介、小牟禮 尊人、 安藤 康裕、山岡 惇、 熊谷 晃、安藤 郁子、 森 香織、瀬沼 健太郎、 柚木 恵介
時間割	集中	オフィスワ-	各教員による
授業科目区分	専門科目—専門専攻科目—ものづくりデザイン専攻科目		
履修区分	専攻必修科目	授業形態	演習（集中）
配当年次・学期	3年次通年	単位数	1単位
前提とする授業科目、密接に関係する授業科目 ものづくりデザイン専攻専門科目と関連する			
授業に関連するキーワード 地域 伝統 工芸 産業 デザイン ものづくり			
授業の到達目標及びテーマ 秋田を含めたそれぞれの地方には、その土地に根付いた様々な伝統工芸や地場産業がその土地ならではの文化形成の一翼を担っている。秋田の伝統的産業の中から選択した工芸品と他の地方で営まれている同種の工芸品の歴史や素材や技術などを調査検討する。その土地ならではの素材や技術文化の関係を再解釈し、今日使い手が求める使用感の充足を考慮した、世代を超えて使用される製品開発の足がかりとする。			
授業の概要 この授業は4年次前期開講の「ものづくりデザイン演習3」に連動する科目であり、資料調査および現地調査のために博物館・工場・工房見学を行う。			
授業計画 第1回 合同ガイダンス 第1回～5回（1日目） 秋田県立博物館見学 秋田県産業技術センター視察 秋田県産品プラザ調査 第6回～10回（2日目） 県北、県央、県南の工場・工房等を3グループに分かれて調査 （木工家具工場、曲げわっぱ工場、ガラス工房、染め工房、漆資料館など） 第11回～15回（3日目） 各グループの調査検討結果を発表する *視察見学の受け入れ先スケジュール等の関係で訪問先は変更になることがあります			
授業時間外の学習内容等 レポートは時間外に書いて提出すること			
評価方法 作品70% 授業態度等30% 100点満点で60点以上を単位認定要件とする。			
履修上の注意			
テキスト 必要に応じて適宜配布			
参考書・参考資料等			

授業科目名	プロダクトデザイン演習 Product Design Seminar	担当教員名	柚木 恵介、今中 隆介 (外部講師)
時間割	木曜日 2 時限	オフィス	各教員による
授業科目区分	専門科目－専門専攻科目－ものづくりデザイン専攻科目		
履修区分	専攻選択必修科目	授業形態	演習
配当年次・学期	3 年次前期	単位数	1 単位
前提とする授業科目、密接に関係する授業科目 「ものづくりデザイン演習 1」「ものづくりデザイン演習 2」「ものづくりデザイン演習 3」「卒業研究」へと段階的に履修する			
授業に関連するキーワード 「デザイン」「コミュニケーションデザイン」「生活」「工芸」「プロダクトデザイン」			
授業の到達目標及びテーマ 現代社会や地域社会から「課題」を抽出し、その「課題」と自身の「想い」や「発想」を重ね合わせ、現実生活に合致した「提案」として具現化する為に、プロダクトデザインの基本的な「思考」と「意識」と「技術」を体得する事を目指します。			
授業の概要 前半では、既存製品を参考にしたデザインの考察展開の仕方を選び、中期では基礎的な立体造形手法と感覚を養います。後半は個人で、前半で学んだ課題発見手法を基に、後期ものづくり演習 2 のテーマに基づいた考察及び調査を行う。			
授業計画 第 1 回 : ガイダンス (プロダクトデザインとは) 第 2 回 : グッドデザイン&バッドデザインWS (外部講師による講義) 第 3 回 : リファレンス課題 1 第 4 回 : リファレンス課題 2 第 5 回 : リファレンス課題 3 第 6 回 : 立体造形基礎 1 第 7 回 : 立体造形基礎 2 第 8 回 : 立体造形基礎 3 第 9 回 : 立体造形基礎 4 第 10 回 : 立体造形基礎 5 : テーマ課題発表&導入 第 11 回 : リサーチ (個別指導) 第 12 回 : アイデア展開 (個別指導) 第 13 回 : コンセプト (個別指導) 第 14 回 : スケッチ (個別指導) 第 15 回 : 提案発表 提出			
授業時間外の学習内容等 毎週ステップアップする課題設定であり、時間外に考察や制作を行うことが前提となります。			
評価方法 毎回出される小課題を時間外に制作提出し、時間内に評価を受けることが前提となる。 毎回の提出作品および発表の水準。技術習得への工夫などを総合的に評価する。			
履修上の注意 模型製作のための用具 (粘土べら・カッターなど) デザインや考察に必要な用具・コピー用紙 (A4) を各自用意して下さい。 ※授業時間以外も準備や制作が必要です。状況により各回の順序や内容が変わる可能性があります。			
テキスト 必要に応じて資料を適宜配布します。			
参考書・参考資料等 デザインの話・サイレントニーズ・デザインの伝え方・行為のデザイン発想法。			

授業科目名	2D・3D CAD 演習 2D and 3D CAD	担当教員名	萩原 博則
時間割	火曜日 3 時限	オフィス	—
授業科目区分	専門科目ー専門専攻科目ーものづくりデザイン専攻科目		
履修区分	専攻必修科目	授業形態	演習
配当年次・学期	3 年次後期	単位数	1 単位
前提とする授業科目、密接に関係する授業科目			
授業に関連するキーワード			
授業の到達目標及びテーマ 基本的な作図を理解した上で CAD の基本設定および基本操作の修得と、その特性を理解することを第一の目的とする。2DCAD では図面作成能力の徹底、3DCAD ではモデリングの概念からレンダリングにおける光源、テクスチャマッピング、カメラアングルの設定を目標とする。2D と 3D 間をシームレスに操作する技術の修得を目指し、提案段階においてバーチャル空間での確認修正を可能とするとともに、2D 図面と 3D プレゼンテーションによる的確な伝達能力を身につける。			
授業の概要 <ul style="list-style-type: none"> ・ CAD の初期設定、各種ツールパレットの機能を理解する。 ・ 座標系、レイヤ、クラスの概念が理解する。 ・ 2DCAD による作図を習得し、それを基盤として 3D モデリング～レンダリングを理解する。 			
授業計画 第 1 回 : 講師紹介+CAD 導入事例紹介・・・CAD の役割について 課題 1 「世界の国旗を描いてみよう」・・・CAD に触ってみる 第 2 回 : 課題 1 「世界の国旗を描いてみよう」・・・続) CAD に触ってみる 第 3 回 : CAD ソフトのインターフェイスの解説・・・操作環境の理解 第 4～5 回 : 課題 2 「世界の国旗を描いてみよう～応用編」・・・CAD に馴れる 第 6 回 : カuttingボードの実測・・・課題 3 の準備 第 7～8 回 : 課題 3 「Cuttingボード」・・・実際の製品を 2D CAD で描いてみる 第 9 回 : 課題 3 「Cuttingボード」・・・2D CAD を 3D に展開 (モデリング) 第 10～11 回 : 課題 4 「踏み台」・・・実際の製品を 2D CAD で描いてみる 第 12～14 回 : 課題 4 「踏み台」・・・2D CAD を 3D に展開 (モデリングとレンダリング) 第 15 回 : 作業予備日			
授業時間外の学習内容等			
評価方法 課題 1・2 の演習課題を 30%、課題 3 の演習課題を 30%、課題 4 の演習課題を 40%として総合評価する。			
履修上の注意 ものづくり製図演習 (2 年前期) の単位を修得しているか、もしくはそれと同等のスキルを有すること。 ※ 各回の順番は、授業進行の状況により変わることがあります。			
テキスト 使用ソフトのオリジナルマニュアルを配布します			
参考書・参考資料等 適時指示します。			

授業科目名	プレゼンテーション演習 Presentation Seminar	担当教員名	柚木恵介、今中隆介、(学外講師)
時間割	水曜日 3 時限	オフィスアワー	
授業科目区分	専門科目－専門専攻科目－ものづくりデザイン専攻科目		
履修区分	専攻選択必修科目	授業形態	演習
配当年次・学期	3 年次前期	単位数	1 単位
前提とする授業科目、密接に関係する授業科目 「ものづくりデザイン演習 1」「ものづくりデザイン演習 2」「ものづくりデザイン演習 3」「卒業研究」へと段階的に履修する			
授業に関連するキーワード 「デザイン」「コミュニケーションデザイン」「生活」「工芸」「プロダクトデザイン」			
授業の到達目標及びテーマ プレゼンテーションとは、創造された新たな価値を他者に伝えるために重要な技術である。最も基本となるのは「自らの声と身体」を使って人に伝える手法であるが、紙媒体や画面媒体にまでプレゼンテーションの領域と表現方法は日々発展している。この授業では、実演や手技から最新のデジタルツールに至る多様化したツールを組み合わせて、それぞれの提案特性に最適化したプレゼンテーションの構築を可能にするスキル修得に取り組む。独自の新しいプレゼンテーション手法の発見を目指し、対象者に向けてよりダイレクトな伝達と共感を与える力を養う。			
授業の概要 ・プレゼンテーションの基本である身体を使った技術と意識の体得 ・作品の持つ魅力を引き出し伝えるための展示方法の体得。 ・作品の静止画・動画撮影と、その処理及び編集技術を学ぶ			
授業計画 第 1 回 : ガイダンス Key note の使い方指導・調査課題 1 の出題 第 2 回 : 調査課題 1 の発表・調査課題 2 の出題 第 3 回 : 調査課題 2 の発表・調査課題 3 の出題 第 4 回 : 調査課題 3 の発表・調査課題 4 の出題 第 5 回 : 調査課題 4 の発表・調査課題 5 の出題 第 6 回 : 調査課題 5 の発表 第 7 回 : テクニック 1 展示方法・座学 (空間と展示台の関係) 第 8 回 : テクニック 2 展示方法・実践 1 (瀬沼先生の実演+体験) 第 9 回 : テクニック 3 展示方法・実践 2 (学生自身で実施) PD 演習制作物を使用 第 10 回 : テクニック 4 写真撮影 (学外講師による集中講義) テクニック 3 の展示をモチーフにする 第 11 回 : テクニック 5 動画撮影 (学外講師による集中講義) 第 12 回 : テクニック 6 画像処理 (学外講師による集中講義) 第 13 回 : テクニック 7 動画編集 (学外講師による集中講義) 第 14 回 : テクニック 8 完成動画の発表 (テクニック 1~7 の取り組みの成果確認) 第 15 回 : まとめ (MD 演習 1 の発表に反映させる)			
授業時間外の学習内容等 毎週ステップアップする課題設定であり、時間外に考察や制作を行うことが前提となります。			
評価方法 毎回出される小課題を時間外に制作提出し、時間内に評価を受けることが前提となる。 毎回の提出作品および発表の水準。技術習得への工夫などを総合的に評価する。			
履修上の注意 基本的なデザイン用具(グリット入りノート、筆記用具、定規など)の準備。基本ソフト(Keynote) が使えることが望ましい。10~13 回は学外講師の参加による指導となります。 ※ 授業時間以外も準備や制作が必要です。状況により各回の順序や内容が変わる可能性があります。			
テキスト 必要に応じて資料を適宜配布します。			
参考書・参考資料等 必要に応じて資料を適宜配布します。			

授業科目名	ものづくりデザイン演習 2 (彫金) Creative Manufacturing Design Seminar II (Metalworking)	担当教員名	安藤 康裕
時間割	火、木曜日 4、5 時限	オフィスアワー	
授業科目区分	専攻科目－専攻専門科目－ものづくりデザイン専攻科目		
履修区分	専攻選択必修科目	授業形態	演習
配当年次・学期	3 年次後期	単位数	4 単位
前提とする授業科目、密接に関係する授業科目 「ものづくりデザイン演習 1 (彫金)」の履修を前提とする。			
授業に関連するキーワード 「もてなし」「工芸」「ものづくり」「デザイン」「素材感覚」「金属加工」			
授業の到達目標及びテーマ 「ものづくりデザイン演習 1」で習得した技術を応用する科目である。実材を扱うもののみが知る素材の魅力や加工技術からの発想と「もてなし」についての考察から得られるコンセプトの融合を目指す。			
授業の概要 コンセプトワークと金属素材での試作を繰り返す。学生ごとにコンセプトに合わせて程度技術の選択をおこなう。あるいは技術に合わせてコンセプトをたてる。作品を完成させるために技術の習得課題を平行して行う。 ガイダンス、プラン発表、中間発表、講評会はものづくりデザイン専攻全体で行う。			
授業計画 第 1 回 ガイダンス (ものづくりデザイン合同ガイダンス) 第 2 回 演習 1 の体験のなかで各自が興味を持った金属表現を基に仮提案をする 第 3 回～6 回 金属素材によるエスキースを行い仮提案の可能性を検討する 第 7 回～9 回 「もてなし」の提案と素材・技法との融合を踏まえたプランを検討する 第 10 回 ものづくりデザイン合同プラン発表 第 11 回 プラン発表で得たアドバイスを踏まえて計画の再検討をおこなう 第 12 回 ～19 回 金属素材による作品制作 第 20 回 ものづくりデザイン合同中間発表 第 21 回 中間発表で得たアドバイスを踏まえて微調整をおこなう 第 22 回 ～28 回 金属素材による作品制作 第 29 回 ～30 回 最終発表			
授業時間外の学習内容等 演習授業であり感覚の養成が必要なため授業時間外でも積極的に制作を行うこと。			
評価方法 作品 (80%) レポート (20%)			
履修上の注意 作業に適した服装で制作を行う。材料費は別途必要。			
テキスト 必要に応じて適宜プリントを配布			
参考書・参考資料等 なし			

授業科目名	ものづくりデザイン演習2 (ガラス) Creative Manufacturing Design Seminar 2 Glass	担当教員名	小牟禮 尊人 瀬沼 健太郎
時間割	火、木曜日 4、5時限	オフィスアワー	各教員による
授業科目区分	専門科目—専門専攻科目—ものづくりデザイン専攻科目		
履修区分	専攻選択必修科目	授業形態	演習
配当年次・学期	3年次後期	単位数	4単位
前提とする授業科目、密接に関係する授業科目 ものづくりデザイン演習1			
授業に関連するキーワード ガラス 基礎造形 デザイン 工芸			
授業の到達目標及びテーマ 「ものづくりデザイン演習2」は、「ものづくりデザイン演習1」で修得した制作技術を応用する科目であると共に、素材を横断する議論によって作品の質をより深化させる仕組みを設ける。ものづくりデザイン専攻所属の3学年生全員と全教員が参加する「合同ガイダンス」・「合同発表」・「合同発表2」・「合同最終発表」の計4回を各「ものづくりデザイン演習2」が共有する基軸として授業を展開する。そして「もてなし」という共通テーマに対し、その幅広い意味を素材分野ごとに物の実制作を通して解釈させる。プロダクトデザイン思想・素材・制作技術の応用により、新たな価値の創造に取り組みせると共に、多角的なもの見方の修得や、プレゼンテーション力を涵養する。			
授業の概要 受講者にサンプルとなるガラスのテーブルウェアを体感させ、その素材が持つ機能や五感にもたらす印象や影響を認識させる。制作課題のテーマとなる「もてなし」の意味を他者との豊かな関係の構築を図る新たな価値の創造として理解させる。			
授業計画 第1回 合同ガイダンス 第2回 生活に密着した様々なガラス素材を使った作品の具体例を示し解説する 課題（テーマ：生活に密着したガラス作品による「もてなし」）の説明・質疑応答 第3回～9回 テーブルウェアの調査分析、作品構想、技法を選び、ドローイングおよび試作 第10回 合同発表 第11回～19回 合同発表1（プラン発表） 第20回 合同発表2 第21回～29回 プラン修正作業、実製作 第30回 合同最終発表 ※ 合同発表は授業の進行状況により変更することがあります。			
授業時間外の学習内容等 各自ガラス工房にて技術習得のため自主的に制作する事。			
評価方法 作品70% 授業態度等30% 100点満点で60点以上を単位認定要件とする。			
履修上の注意 ホットワークは安全のために必ずアシスタントを決めて常に2人以上で制作すること。 動きやすい服装、靴で受講してください。			
テキスト			
参考書・参考資料等			

授業科目名	ものづくりデザイン演習2(陶芸) Creative Manufacturing Design Seminar Ceramics	担当教員 名	安藤 郁子
時間割	火、木曜日 4、5 時限	オフィスアワー	
授業科目区分	専門科目－専門専攻科目－ものづくりデザイン専攻科目		
履修区分	専攻選択必修科目	授業形態	演習
配当年次・学期	3年後期	単位数	3単位
前提とする授業科目、密接に関係する授業科目			
授業に関連するキーワード			
授業の到達目標及びテーマ 「もてなし」を専攻共通のテーマとし、その幅広い意味を陶芸の実制作を通して解釈する。プロダクトデザイン思想・素材・制作技術の応用により、新たな価値の創造に取り組むと共に、多角的なもの見方を修得し、プレゼンテーション力を涵養する。			
授業の概要 テーブルウェアなどの「暮らしの道具」制作を行うことを通し、陶芸技法の習得と共に、新たな価値の創造を目標として現代社会を捉え直す力を養う。各技法や制作プロセスによる陶芸の固有性を体得し、併せて、使い手の心理や使用感を意識し、社会(他者)との関係性からものづくりデザインを捉える力を培う。			
授業計画 第1回 合同ガイダンス 第2回 - 3回 “もてなし” を考える(リサーチ、ディスカッション) 第4回 - 5回 “ものづくり” を考える(リサーチ、ディスカッション) 第6回 - 7回 “暮らしの道具” を考える (リサーチ、ディスカッション) 第8回 - 9回 試作、プレゼン資料作成 第10回 合同発表1(プラン発表) 第11回 プランの再検討と決定 第12回 - 19回 各自のプラン、制作技法により制作 第20回 合同発表2(中間発表) 第21回 - 28回 各自のプラン、制作技法により制作 第29回 最終発表用プレゼンボード作成、展示方法決定 第30回 合同最終発表			
授業時間外の学習内容等 ・授業時間外に各自制作を進めること。			
評価方法 課題作品 80%授業態度等 20%で評価し、60点以上を単位認定要件とする。			
履修上の注意 必要に応じて各自で材料や陶芸用小道具を準備する必要がある			
テキスト 授業中に資料を適宜配布する。			
参考書・参考資料等 なし			

授業科目名	ものづくりデザイン演習 2 (漆) Creative Manufacturing Design Seminar 2 Urushi	担当教員名	熊谷 晃
時間割	火、木曜日 4、5 時限	ワイクアール	
授業科目区分	専門科目－専門専攻科目－ものづくりデザイン専攻科目		
履修区分	専攻選択必修科目	授業形態	演習
配当年次・学期	3 年次後期	単位数	4 単位
前提とする授業科目、密接に関係する授業科目 「ものづくりデザイン演習 1 (漆)」の履修を前提とする。			
授業に関連するキーワード 「もてなし」「工芸」「ものづくり」「デザイン」			
授業の到達目標及びテーマ 現代が求める、他者との豊かな関係の構築、という意味での「もてなし」を制作テーマとする。この演習の到達目標は、漆素材の塗料としての特徴や、造形素材、塗り表現としての可能性を充分理解し、作品全体のデザインに反映させ制作意図に適した提案をする事である。各自が制作する形態は乾漆技法で形作り、朱漆の塗り立て仕上げを修得する。			
授業の概要 「ものづくりデザイン演習 2」は、「ものづくりデザイン演習 1」で修得した制作技術を応用する科目と位置づける。漆器（椀、皿、酒器等）の使用を事例とし、その目的や使用感、形態の考察を通して、器物としての用途性と塗り表現としての効果を検討し漆器の使われ方を多角的な視点で捉える。次に「もてなし」というテーマから実際に制作する「器」を検討し、乾漆技法で制作する。またこの授業では、「ガイダンス」・「プラン発表」・「中間発表」・「最終発表」を設定し、多角的なものの見方の修得や提案力を養う。			
授業計画 第 1 回～2 回 合同ガイダンス、課題説明、図面制作（もてなしをテーマとした乾漆の器制作） 第 3 回～4 回 アクリル板の引き型制作 第 5 回～6 回 粘土原型制作 第 7 回～8 回 石膏型の制作 第 9 回～10 回 プラン発表 第 11 回～14 回 下地工程 第 15 回～18 回 麻布貼り工程 第 19 回～20 回 中間発表 第 21 回～22 回 脱乾漆、下地工程 第 23 回～26 回 下塗り、中塗り、研磨 第 27 回～28 回 上塗り、高台裏塗り 第 29 回～30 回 最終発表			
授業時間外の学習内容等 ものづくりデザイン演習 1 と同様、制作ノートを取り復習をすると同時に、授業時間外を利用して塗りや研ぎ、原型制作等各自制作を進める。			
評価方法 作品（80%）レポート（20%）			
履修上の注意 作業に適した服装で制作を行う。材料費は別途必要。			
テキスト 必要に応じて資料を適宜配布する。			
参考書・参考資料等 「漆芸の伝統技法」佐々木 英 著 東京：理工学社			

授業科目名	ものづくりデザイン演習 2(木工) Creative Manufacturing Design Seminar Woodworking	担当教員名	山岡 惇
時間割	火、木曜日 4, 5 時限	オフィスアワー	
授業科目区分	専門科目—専攻専門科目—ものづくりデザイン専攻科目		
履修区分	専攻選択必修科目	授業形態	演習
配当年次・学期	3 年次後期	単位数	4 単位
前提とする授業科目、密接に関係する授業科目			
授業に関連するキーワード			
授業の到達目標及びテーマ 「ものづくりデザイン演習 1」で修得した制作技術を応用する科目である。「もてなし」という共通のテーマに対し、その幅広い意味を物の制作を通して解釈する。また、プロダクトデザイン思想・素材・制作技術の応用により、新たな価値の創造に取り組むと共に、多角的なもの見方の修得や、プレゼンテーション力を涵養する。			
授業の概要 身の周りの木製品を例として、その形態や使用感、役割等を観察し、人と物の関わりについて考える。その上で現代の求める「もてなし」というテーマに基づき、ディスカッションや試作を繰り返し、アイデアの検討及び提案、制作を行う。			
授業計画 第 1 回 合同ガイダンス。 第 2 回 授業の進め方について説明する。 第 3.4 回 身の周りの木製品などを観察し、現代の生活の中での役割について考える。 第 5.6 回 「もてなし」をテーマに作品のアイデアスケッチを行う。 第 7～9 回 デザイン案の制作図を作成し、模型制作を行う。 第 10 回 合同発表 1 (プラン発表)。 第 11～14 回 改善のためのアイデアスケッチ、模型の修正を行う。 第 15～17 回 使用材、制作技術、手順等の検討。 第 18.19 回 制作図を作成する。 第 20 回 合同発表 2 (中間発表)。 第 21～29 回 かんな盤での加工、部材取り、部材加工、組み立て、研磨、塗装を行う。 第 30 回 合同最終発表			
授業時間外の学習内容等			
評価方法 ・課題作品 80%、レポート 20% で評価し、60 点以上を単位認定要件とする。			
履修上の注意 ・作業に適した服装で履修すること。 ・授業外に制作を進めておく必要があります。 ・材料費がかかります。また工具など指定されたものを準備する必要があります。			
テキスト なし			
参考書・参考資料等 ・木工の伝統技法(理工学社)、原色木材大事典 170 種(誠文堂新光社)			

授業科目名	ものづくりデザイン演習2 (染) Creative Manufacturing Design Seminar2 Dyeing	担当教員名	森 香織
時間割	火、木曜日 4・5 時限	オフィスアワー	
授業科目区分	専門科目—専門専攻科目—ものづくりデザイン専攻科目		
履修区分	専攻選択必修科目	授業形態	演習
配当年次・学期	3年次後期	単位数	4単位
前提とする授業科目、密接に関係する授業科目 ものづくりデザイン演習1 (染) の履修を前提とする。			
授業に関連するキーワード 染色、本友禅染、型染、ものづくり、工芸、もてなし			
授業の到達目標及びテーマ 「ものづくりデザイン演習2」は、「ものづくりデザイン演習1」で修得した制作技術を応用する科目である。「もてなし」という共通テーマを設定し、その意味を素材分野ごとの実制作を通して考え、プロダクトデザイン思想・素材・制作技術の応用により新たな価値の創造を目指す。また、「合同ガイダンス」・「プラン発表」・「中間発表」・「合同最終発表」を行い、多角的なものの見方の修得やプレゼンテーション力を養う。			
授業の概要 それぞれのアイデアに対してどのような表現方法を用いることが可能か。布の形状としての特性(平板で薄く軽量)と繊維としての特性(吸湿性・柔軟性・通気性・保温性)を踏まえ、用途やデザインを検討する。試作を通して素材と染色技法の可能性を探り、現代の求める「もてなし」をコンセプトとした、物の制作を行う。			
授業計画 第 1 回 合同ガイダンス 第 2 ～ 3 回 「もてなし」についての調査と考察 第 4 ～ 6 回 アイデアスケッチとサンプル収集 第 7 ～ 8 回 デザイン案の検討 第 9 ～ 10 回 プラン発表 第 11 ～ 12 回 素材と技法の検討 第 13 ～ 15 回 試作 第 16 ～ 18 回 実制作1 (制作工程は各自で異なるため、それぞれ日程表をつくり制作) 第 19 ～ 20 回 中間発表 第 21 ～ 26 回 実制作2 (制作工程は各自で異なるため、それぞれ日程表をつくり制作) 第 27 ～ 28 回 仕上げ (縫製・パネル張り等) 第 29 ～ 30 回 合同最終発表 ※学外講師によるミシンワークの講義 (全3回) を含む。(開講時期未定)			
授業時間外の学習内容等 事前の予習と十分な復習を要する。また作業の性質上、授業時間内に制作が進まなかった場合は時間外の制作が必要となる。			
評価方法 提出作品 (80%) レポート (20%) を総合して判断する。			
履修上の注意 彩色用具一式、筆記用具、スケッチブックを持参すること。 染色道具・材料等の費用が別途必要である。			
テキスト 特になし			
参考書・参考資料等 「きれいに縫うための基礎の基礎」水野佳子著 (文化出版局)			

授業科目名	ものづくりデザイン演習 2 (プロダクトA) Creative Manufacturing Design Seminar 2 (product A)	担当教員名	柚木 恵介
時間割	火、木曜日 4、5 時限	オフィス	
授業科目区分	専門科目ー専門専攻科目ーものづくりデザイン専攻科目		
履修区分	専攻選択必修科目	授業形態	演習
配当年次・学期	3 年次後期	単位数	4 単位
前提とする授業科目、密接に関係する授業科目 「ものづくりデザイン演習 3」「卒業研究」へと段階的に履修する			
授業に関連するキーワード 「デザイン」「コミュニケーションデザイン」「生活」「工芸」「プロダクトデザイン」			
授業の到達目標及びテーマ 「ものづくりデザイン演習 2」は、「ものづくりデザイン演習 1」で修得した制作技術を応用展開する科目である。「もてなし」という共通テーマに対し、その幅広い意味を素材分野ごとに物の実制作を通して解釈させる。プロダクトデザイン思想・素材・制作技術の応用により、新たな価値の創造に取り組みせると共に、多角的なもの見方の修得や、プレゼンテーション力を涵養する。			
授業の概要 ものづくりデザイン専攻所属の 3 学年生全員と全教員が参加する「合同ガイダンス」・「合同発表 1 (プラン発表)」・「合同発表 2 (中間発表)」・「合同最終発表」の計 4 回を各「ものづくりデザイン演習 2」が共有する基軸として授業を展開する。プロダクトデザインを専攻した学生は「現代生活」に必要な具体的なモノの領域で、提案としてまとめる。			
授業計画 第 1 回 : 合同ガイダンス。 第 2・3 回 : 課題の説明・導入 (グループワーク)・調査・分析・問題点の抽出 第 4 回 : 調査・分析・問題点の抽出 第 5 回 : 調査結果と解決すべき問題点の確定を発表 (メンバー内意見交換) 第 6・7 回 : デザインの構想 (コンセプトワーク) 第 8 回 : デザインの構想 (メンバー内意見交換) 第 9 回 : デザインスケッチ・プレゼンテーション資料作成 第 10 回 : 合同発表 1 (プラン発表) 第 11 回～15 回 : デザインブラッシュアップ・簡易模型作成 第 16 回～19 回 : 三面図作成・プレゼンボード制作 第 20 回 : 合同発表 2 (中間発表) 第 21 回～27 回 : 最終模型 (データ) 作成 第 28 回～29 回 : 作品写真/動画撮影・プレゼン資料作成 第 30 回 : 合同最終発表 ★上記課題と平行して、第 1 回～10 回の際に、ものづくりデザイン演習 1 で造った「立体模倣課題 B」の鋳型・塗装技術指導を行ないます。			
授業時間外の学習内容等 毎週ステップアップする課題設定であり、時間外に考察や制作を行うことが前提となります。			
評価方法 毎回の提出作品および発表の水準。技術習得への工夫などを総合的に評価します。			
履修上の注意 デザインや計測作図に必要な用具・切削接合に必要な用具の費用・材料費が別途かかります。授業時間以外も準備や制作が必要です。状況により各回の順序や内容が変わる可能性があります。			
テキスト 必要に応じて資料を適宜配布します。			
参考書・参考資料等 提出作品評価 50% 課程評価 50% (調査分析・コンセプト立案・デザイン検証・試作検証などの課程を評価)			

授業科目名	ものづくりデザイン演習 2 実 (プロダクトデザイン-B) Creative Manufacturing Design Seminar 1 PD-B	担当教員名	今中 隆介
時間割	火、木曜日 4、5 時限	オフィス	
授業科目区分	専門科目－専門専攻科目－ものづくりデザイン専攻科目		
履修区分	専攻選択必修科目	授業形態	演習
配当年次・学期	3 年次後期	単位数	4 単位
前提とする授業科目、密接に関係する授業科目 「ものづくりデザイン演習 1 (PD-B)」の履修を前提とする。			
授業に関連するキーワード 「もてなし」「美しさ」「フォルム」「生活」「道具」「プロダクトデザイン」「プレゼンテーション」			
授業の到達目標及びテーマ 「ものづくりデザイン演習 1」で修得した制作技術と考え方を基盤として応用的展開に取り組む科目である。「もてなし」という共通テーマに対し、その幅広い意味を素材分野ごとに物の実制作を通して解釈させる。プロダクトデザイン思想・素材・制作技術の応用により、新たな価値の創造に取り組みせると共に、多角的なものの見方の修得や、プレゼンテーション力を養う。			
授業の概要 演習 1 で得た「立体感覚」「フォルムに対する自己感覚の客観的理解」「造形技術」を基盤として生活道具の提案と制作を行う。自身のインテリアデザイナーとしての実務実績を紹介および参照しつつ、生活道具を取り巻く生活空間を歴史や地域性といった深度で考察した上で、家具の役割の明確化を計り具現化に取り組む。スタートアップとしてグループでの発想と分析を行う。グループで共有した分析をもとに自己課題に展開する。			
授業計画 ・第 1～2 回 → 合同ガイダンス、グループでの発想と分析（ブレインストーミングと KJ 法） ・第 3～4 回 → 調査のまとめ、グループ発表 ・第 5～6 回 → 個人でのコンセプト構築（目標設定シートの組み立て） ・第 7～8 回 → ラフコンセプト、ラフデザインをまとめる ・第 9～10 回 → 合同発表（プラン発表） ・第 11～12 回 → デザイン展開 ・第 13～14 回 → 具体的なデザインの確定、目標設定シートの更新 ・第 15～18 回 → 制作 ・第 19～20 回 → 合同発表（中間発表） ・第 21～26 回 → 制作とプレゼンテーション資料の作成 ・第 27～28 回 → プレゼンテーション資料のまとめと発表準備 ・第 29～30 回 → 合同最終発表			
授業時間外の学習内容等 毎回の課題は規定の授業時間の 2 倍のボリュームを設定する。毎回数週までの授業時間外を利用し、設定された課題をこなしつつ授業計画に則って授業を進める。			
評価方法 グループ評価 15%、コンセプト評価 25%、制作評価 60%（提案に対する制作物）とする。			
履修上の注意 スケッチや作図等に必要な用具を持参すること。材料費と簡単な工具類が必要。授業時間外に授業準備や製作を行うこと。授業進行の状況により各回の順番は変ることがあります。制作作業では汚れても良い服装で履修すること。			
テキスト 必要に応じて資料を適宜配布します。			
参考書・参考資料等 デザインのデザイン（原研哉）、デザインの輪郭（深澤直人）、生活道具に関わる各種カタログ、他			

授業科目名	ものづくりデザイン演習 3 Creative Manufacturing Design Seminar 3	担当教員名	小牟禮 尊人、安藤 康裕、今中 隆介、 山路 康文、山岡 惇、安藤 郁子、 熊谷 晃、瀬沼 健太郎、森 香織、柚 木 恵介
時間割	火曜日 3、4、5 時限	オフィスアワー	各教員による
授業科目区分	専門科目ー専門専攻科目ーものづくりデザイン専攻科目		
履修区分	専攻必修科目	授業形態	演習
配当年次・学期	4 年次前期	単位数	6 単位
前提とする授業科目、密接に関係する授業科目 「ものづくりデザイン演習 1、2」の履修を前提とする。「地域産業研究」と関連している。			
授業に関連するキーワード 「地域産業」「デザイン」「グループワーク」「生活」「工芸」「プロダクトデザイン」「ものづくり」 「木・漆・金属・染色・陶芸・ガラス」			
授業の到達目標及びテーマ 風習・生活習慣などの風土に根差し形成されてきた地域文化や、3 年時の地域産業研究によって得られた工芸の知見から抽出した特質を、ものづくりの根拠とします。そして現代のプロダクトデザイン思想を応用することで、情感を引き出す機能や形態を考慮した、使用感の充足が得られるものづくりを試みます。			
授業の概要 世界標準的文化とは異なる地域文化の特性に着目し再解釈することで現代社会が求める新たな価値を創造します。各自が学んできた素材に対する知識と経験、デザイン思想を起点に手作りの生活実用品を制作します。中間発表まではグループワークが中心となり、発表を経て各自が制作工房で実制作に取り組む。課題「美しい生活」をテーマに使用感の充足が得られる作品を制作する。			
授業計画 第 1 回 ガイダンス（科目の位置づけ、到達目標など） 第 2 回～5 回 コンセプトの検討・資料づくり 第 6 回 コンセプト発表 第 7 回 制作計画書作成 第 8 回～11 回 模型制作 第 12 回 中間発表 第 13 回～43 回 制作工房でそれぞれ実制作に取り組む 第 44 回～45 回 最終発表			
授業時間外の学習内容等 中間発表まではグループ内での調査・検討を充実させ、実制作に入った後も授業時間外の制作を行い、各グループで進捗状況を確認しながら進める。			
評価方法 課題提出作品 100%			
履修上の注意 作業に適した服装で制作を行う。材料費が別途必要。			
テキスト 必要に応じて資料を適宜配布します。			
参考書・参考資料等 必要に応じて資料を適宜配布します。			